

第2学年*組 英語科学習指導案

指導者 (coffee コース) 山崎 孝夫 (少人数教室)

(tea コース) 野本 実可子 (JTE) (教室)

Adam Linton (ALT) (教室)

英語科 研究テーマ コミュニケーション能力と自己表現力を高める英語科指導の在り方

1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States

2 単元の目標

- ホームステイに関心を持ち、積極的に自分の意思を伝えようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 助動詞を用いて自分の意思を伝える文を話したり書いたりすることができる。 (表現の能力)
- 助動詞の文の形・意味・用法などの知識を活用して内容を正しく読み取ることができる。
(理解の能力)
- ホームステイに関する知識を理解することができる。 (言語や文化についての知識・理解)

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、新学習指導要領外国語の指導計画の作成と内容の取り扱い(1)ア「多様なものの見方や考え方を理解」に関連している。題材はアメリカでのホームステイにおける家庭生活の違いやホームステイをする上での注意点などが取り上げられており、異文化理解をねらいとしている。本単元の内容は、家族の一員としての心構え、ベッドメイキングについて、そしてホームステイをする上での相談やアドバイスについてという構成になっている。その中で、英語が完璧でなくても積極的に話すことや率直に自分の意思を伝えることなどコミュニケーションをする上で大切なことを学ぶことができる。また、本市は姉妹都市での交換留学が可能のため、1人でも多くの生徒が関心を持ち、姉妹都市交流事業に参加したいと思えるように指導したい。

本単元の文法事項では、have to, don't have to, will, must, mustn't の助動詞を扱う。これらの助動詞と1学年での既習事項である can, can't, また2学年での既習事項である be going to との関連に留意しながら意味や用法について理解と定着を図りたい。本単元で学習する have to, や must, will などを用いて、最終的に相手に簡単な助言や忠告などができるようなコミュニケーション活動へと結びつけていきたい。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、明るい生徒が多く、授業に対して真面目に取り組むことができる。英語を話すことにためらう生徒も少なく、コミュニケーション活動へ積極的に参加することができる。簡単な英語を用いたインタビュー活動やALTを交えてのゲームなどにも意欲的に取り組む。一方で、書く活動に対しては苦手意識をもっている生徒が多い。そこで基礎・基本の定着を図り、苦手克服のためにコース別学習を取り入れている。coffee コース(発展)の生徒は海外に目を向ける生徒も多く、コミュニケーション活動を充実させ発展的な課題に取り組ませている。tea コース(基礎)の生徒は基礎・基本の習得に重点を置いた繰り返し学習を進めている。少しずつであるが、書く活動への苦手意識もなくなっている。

(3) 指導観

本単元では、ホームステイに関する「常識」を学ぶことと各種助動詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現することが大きな目標である。ホームステイの「常識」に関しては、ホームステイをする際の留意点などを学ぶ。また同時に「完璧な英語でなくてもいいから話すこと」「率直かつていねいに意思を伝えること」など、ホームステイに限らずコミュニケーション一般に大切であることも学ぶ。本学級の生徒たちは、少しずつ英語の表現力も身に付いてきており、海外での生活や留学などに興味をもつ生徒も増えている。本市での姉妹都市交流事業を授業の中で紹介し、生徒にはホームステイが現実的なものとしてとらえられるようにしていきたい。また、コミュニケーションをとる上で「完璧な英語でなくてもいいから話すこと」の大切さをワンワードイングリッシュを例として取り上げて理解させたい。「意思を伝えること」はキャリア教育の観点からも非常に重要なものであり、英語を学習する意義を考えさせるよい機会となる。意思伝達の観点からも、クラスルームイングリッシュの充実を図ることで生徒の表現力を高めたい。

「助動詞」の学習では **have to**, **don't have to**, **must**, **mustn't** の文の形や意味・用法を基本本文を用いたパターンプラクティスで定着させる。その際、**have to** と **must** の意味の類似や **don't have to** と **mustn't** の意味の相違に気付かせながら、正しい英文で表現できるように書き換えなどの英作文活動を繰り返し行う。**will** を学習する際にも、既習事項である **be going to** との意味の関連に留意し、書き換え等の英作文活動を行うことで生徒の思考をより深く表現力を伸ばしていきたい。

本学年では、少人数での学習コースを設けている。学習コースは **coffee** コース（発展）と **tea** コース（基礎）があり、コース選択に関しては生徒へのアンケートによって決定した。**coffee** コース（発展）ではパターンプラクティスを中心に基礎・基本の定着を図った上で、助動詞を用いた英作文活動を行う。**tea** コース（基礎）では基本本文を中心に文法事項を定着を図れるように学習を進める。

研究テーマに迫る手だてとして **coffee** コースでは、課題文を生徒自らに考えさせ、主体的に課題解決に取り組む場を設定する。課題文を生徒が自ら設定し、グループで解決することで、思考をより深く、表現力が高まると考える。また、クラスルームイングリッシュなどインタラクションの場面も多く設定し、表現力の向上を図る。ホームステイが題材のため、**coffee** コース（発展）の中から一人でも多くの生徒が姉妹都市交流事業に参加するように、実際のパンフレットなどを提示して興味・関心を深めたい。**Tea** コースの手だてとしては書くことのみではなく、話すことから基本表現の習得を図りたい。**ALT** を積極的に活用した反復練習のもと、ペアやグループを活用したゲームを取り入れることで、英語によるコミュニケーションの楽しさを実感させ、表現力を高めていきたい。

4 指導と評価の計画（4時間扱い）

次	時	学 習 活 動	主 な 評 価 規 準
1	1	Starting out ○ ホームステイのガイドを読み、ホームステイについて知り、考える ○ have to , don't have to を学ぶ (本時)	・ 本文の内容を理解し、ホームステイについて知ることができる。(知識・理解) ・ have to , don't have to を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。(表現) ・ 対話文を発表することができる。
	2	Dialog ○ ホームステイでの対話文を読む ○ will を学ぶ	(関・意・態) ・ will を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。(表現)
	3	Reading for Communication ○ 相談とそれに対する助言を読んで内容を理解する ○ must を学ぶ	・ 本文の内容を理解することができる。(知識・理解) ・ must を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。(表現)
	4	Reading for Communication ○ 苦情とそれに対する忠告を読んで内容を理解する ○ must not を学ぶ	・ 本文の内容を理解することができる。(知識・理解) ・ must not を用いた分の形・意味・用法を理解し、表現できる。(表現)

5 本時の学習 (coffee コース)

- 授業の視点 書く活動を通して、生徒が主体的に課題を考え、表現力を高める場の設定の工夫

(1) 本時の目標

- 本文の内容を理解し、ホームステイについて知ることができる。

(言語や文化についての知識・理解)

- **have to, don't have to** を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。(表現の能力)

(2) 準備・資料 小テスト用紙, ホームステイガイドブック, フラッシュカード, 英作文シート

CD, ワークシート, 和英辞書, 掲示用短冊, 写真, ホワイトボードマーカー

(3) 展開

学 習 活 動 ・ 内 容	支 援 の 手 立 て (◎評価) ※研究テーマに迫る手だて
<p>1 あいさつとディクテーションをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Hello. How are you ? ・ What day is it today ? <p>2 本時の学習内容を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>日本でのホームステイのパンフレットに載せる10か条を書こう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際のガイドブックを見て、ホームステイについて知る。 ・ have to, don't have to について学ぶ <p>3 教科書の内容を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新出単語を学習する。 ・ 教科書本文を読む。 ・ 教科書の内容を理解する。 <p>4 英作文活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本でホームステイのパンフレットに載せる10か条を考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>予想される生徒の反応</p> <p>ア 正しい語順で書くことができない</p> <p>イ 英語での表現・綴りがわからない</p> <p>ウ have to と don't have to の使い分けができていない</p> <p>エ 日本語の文章が思いつかない</p> <p>オ すぐに課題解決してしまう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英文の答えの確認を行う。 <p>5 本時のまとめをし、自己評価をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を学習する良い雰囲気作りをする。 ・ can と be going to を含んだディクテーションを行い、基礎・基本の定着を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際のホームステイのガイドブックを提示し、ホームステイへの関心を高める。 ・ 生徒とのインタラクションの場を設定し、その中で have to, don't have to を耳になじませ、聞くことを通して定着を図る。 ・ have to, don't have to の基本表現に限定し、本時の学習内容に取り組みやすくする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ フラッシュカードを用いてリズムカルに行う。 ・ CD を活用し、ネイティブな発音に慣れさせる。 ・ グループ活動を活用し、ワークシートを用いることで本文の内容を簡潔に整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題となる日本語の文章は生徒に考えさせ、ホワイトボードに掲示する。 ・ できるだけ多くの文章が出せるよう促す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>生徒への対応</p> <p>ア 同じグループの生徒にたずねさせる。</p> <p>イ 和英辞書を用意し、調べさせる。</p> <p>ウ 同じグループの生徒に和訳させ、誤りに気付かせる。</p> <p>エ 教師の机間指導で個別に支援する。</p> <p>オ 発展的な内容の課題を与える。</p> </div> <p>※生徒が主体的に課題文を考え、それらを英訳する場を設定することで思考を深め、表現力を高めたい。</p> <p>◎ have to, don't have to を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 (表現の能力 観察・ワークシート)</p> <p>◎ 本文の内容を理解し、ホームステイについて知ることができる。(知識・理解 ワークシート)</p>

5 本時の学習 (tea コース)

○ 授業の視点 話す活動を通して、生徒が楽しみながら表現力を高められる場の設定の工夫

(1) 目標

○本文の内容を理解し、ホームステイについて知ることができる。

(言語や文化についての知識・理解)

○have to, don't have to を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる (表現の能力)

(2) 準備・資料 小テスト用紙, 例文の内容を表した絵, 例文を書いたパネル, ワークシート, 活動で使う物 (家の写真や食器など), 和英辞書

(3) 展開

学 習 活 動 ・ 内 容	支 援 の 手 だ て (◎評価) ※研究テーマに迫る手だて
<p>1 英語であいさつをする。</p> <p>2 小テストを行う。</p> <p>3 本時の学習内容を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>have to と don't have to を学ぼう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ have to, don't have to について学ぶ。 <p>4 グループで練習問題を解く。</p> <p>5 教科書の内容を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新出単語を学習する。 ・ 本文を音読する。 ・ 本文の内容を理解する。 <p>6 have to, don't have to を用いた表現活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ALT が生徒の家にホームステイするという設定で、家のルールを ALT に教える。 ・ have to, don't have to を用いて家のルールを考え、家の写真や小道具を使いながら伝える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>予想される生徒の反応</p> <p>ア 自分の考えを自力で正確に表現できる。</p> <p>イ 多少の文法的なミスはあるが、自分の考えを表現できる。</p> <p>ウ 何を書きたいか決まっているが、自力で表現できない。</p> <p>エ 何を書いたらよいかわからない。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに前に出て、発表する。 ・ 聞いているグループは、発表されたものをワークシートに書き込んでいく。 <p>7 本時の振り返りと自己評価を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語で元気よくあいさつすることで英語学習の雰囲気作りをする。 ・ 本時の学習につながるよう、do を用いた問題を扱う。 ・ わかりやすい場面を設定した例文を複数用意し、have to, don't have to の文の形と意味に気付けるように導入する。 ・ JTE は日本語での説明を中心に、ALT は英語の発音を中心に支援する。 <p>※まずは自分で考えてみるよう指示し、わからないときはグループの友達に聞いてみるよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ しっかりと発音させ、定着を図る。 ・ 単語や文法事項をもとに本文の内容を理解させる。 <p>※英語で考えたことを使って話すことで、より現実の場面に近い表現活動を行う。グループで活動することで、全員が取り組めるようにする。また、自分の英語が ALT に通じたという達成感やコミュニケーションの楽しさを感じられるようにしたい。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>生徒の反応への手だて</p> <p>ア 他にも表現できることがないか、さらに表現活動を促す。</p> <p>イ ミスに自分で気付けるような声かけをする。</p> <p>ウ 文法事項を再度確認する。また、必要な単語などを引き出していく。</p> <p>エ まず、日本語でどんなことを表現したいか考えさせ、英語に置き換えるよう助言する。</p> <p>※ 友達と相談しながら活動してよいと伝える。</p> </div> <p>◎have to, don't have to を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 (表現の能力 観察・ワークシート)</p> <p>◎本文の内容を理解し、ホームステイについて知ることができる。 (知識・理解 観察・ノート)</p>

第2学年 「Speaking Plus 2」

本時の目標

- have to, don't have to を用いた英文を自ら考え、正しく表現できる。
- 本文の内容を理解し、ホームステイについて知ることができる。

学習の流れ

- 1 あいさつとディクテーションをする。
 - ・ Hello. How are you ?
 - ・ What day is it today ?

- 2 本時の学習内容を知る。

日本でのホームステイのパンフレットに載せる10か条を書こう。

- ・ 実際のガイドブックを見て、ホームステイについて知る。
- ・ have to, don't have to について学ぶ



- 3 教科書の内容を通して基本表現を確認する。
 - ・ 新出単語を学習する。
 - ・ 教科書本文を読む。
 - ・ 教科書の内容を理解する。

研究主題に迫るための手だて

学びたくなる課題

～ホームステイの写真を使った課題提示～



カナダの家庭は日本と違うんだな。

僕もホームステイに行ってみたいな……。

学びの道筋の明確化

～生徒とのインタラクションの場～



今、have to って聞こえたような気がする。

have to は「しなくてはならない」だから、don't have to は「してはならない」かな……。

4 英作文活動を行う。

- ・ 日本でのホームステイのパンフレットに載せる10か条を考える。



- ・ できあがった英文をグループ・全体で比較する。

5 自分の言葉で英文をまとめ、自己評価をする。



自分の考えをもつ

～個人で考える英作文活動～

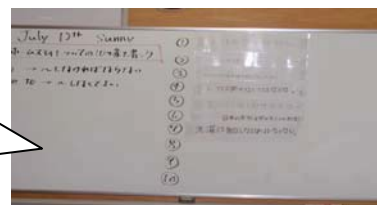


一人1冊の和英辞書があつてよかつた。

グループ学習を生かした課題解決(1)

～グループ・全体による英作文活動～

そんな文章は思いつか
なつたな。



生徒自ら考えた課題文の共有化

グループ学習を生かした課題解決(2)

～全体から個へ学習内容を戻す活動～



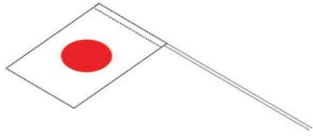
僕はこう書いたけど、みんなのは少し違うな。

表現力を高める場の設定

<考察>

- 実際のパンフレットや和英辞書を一人一人に配布したことで、自分で表現方法を模索・判断し、英文を考えることができた。個での学習の時間を設けることで、思考力・判断力を高めることができ、また課題に対して主体的に取り組むことができた。
 - 生徒・教師間、生徒間でのインタラクションの場を多く設定することで、文法事項の導入や学習事項の確認、グループでの意見交換がスムーズに行われ、表現力の向上につながった。
 - 生徒の興味・関心を引く課題を提示したことで、グループによる学習が充実し表現を共有することができ、また個人へ学習を戻してから英文の比較検討ができ、自分の言葉で英文をまとめることができた。
- △教科書の内容を学習する時間配分が長くなり、英文発表の時間を十分に取ることができなかった。時間配分や発表の形式・効率化も改善する必要がある。
- △次時以降に学習する内容も生徒は表現していた。本時の活動を単元の最後に行うとさらに充実したと考えられる。生徒の表現力をさらに高められるような指導計画を立てていきたい。

Homestay in Japan Name _____



日本でのホームステイ10か条



- 1 _____
- 2 _____
- 3 _____
- 4 _____
- 5 _____
- 6 _____
- 7 _____
- 8 _____
- 9 _____
- 10 _____

Unit 4 Starting Out

Class _____ No. _____ Name _____

< have to と don't have to を学ぼう。 >

Step 1 あなたは英語を話します。 → _____ You speak English. _____

Step 2 あなたは英語を話さなくてはならない。 → _____

Step 3 あなたは英語を話さなくてもよい。 → _____

<どんなアドバイスが書いてあるのでしょうか？>

Communication is important. (コミュニケーションは _____)

You have to speak English. (あなたは _____)

But you don't have to speak perfect English. (でもあなたは _____)

You're a member of the family. (あなたは _____)

You have to help with the housework. (あなたは _____)

自己評価	1	ホームステイについて理解できた。	A	B	C
	2	have to を使ってホームステイの10か条を書けた。	A	B	C